

1 社会科における子どもに備えさせたい資質・能力

子どもたちが生きるこれからの時代はこれまで以上に変化が激しく、人口減少、超少子高齢化、グローバル化の進展による社会構造の変化、環境問題など様々な問題に直面していく。そういう21世紀を生きる子どもたちに求められる資質・能力はこれまでの知識習得、反復・再生といった単純一方向性のものではない。社会とのかかわりを意識して課題を追求する力、自分なりの見方・考え方をを用いて物事を選択・判断する力、他者と協力して解決していく力、持続可能な社会づくりの観点から諸課題を解決しようとする態度など、論理的で双方向的な汎用的能力が求められる。

本学校園社会科部の研究は、子どもたちが主体的に問題を見つけ解決を図る問題解決学習の在り方である。身近な地域からグローバルな問題に対し、主体的協働的に解決策を導き出すために、社会的な見方・考え方を使得、問題解決を図ってきた。先に述べたように、これから多くの課題に直面するであろう子どもが、生涯にわたって他者と協働しながら問題解決の道をさぐり続けることのできる姿の育成を目指して、本学校園社会科部では「社会的な見方・考え方を働かせながら、問題解決をする力（以下問題解決能力）」の育成を目指す。とりわけ、以下の3つの力の育成に焦点を当て目指す資質・能力に迫りたいと考える。

社会的な見方・考え方を働かせながら、問題解決をする力（問題解決をする力）

1. 知識を構造化し、社会的な見方や考え方を獲得する。
2. 社会的な見方・考え方を働かせて物事を選択・判断する。
3. 学んだことと自分との関わりについて考え、自分のくらしにつなげる。

2 資質・能力を育むために

問題解決能力を育成するためには、まず問題解決学習を行うことが重要だと考える。教育課程企画特別部会において、社会的な見方・考え方は社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」であることが謳われている。そこで、「問題解決能力」の育成にあたり右図のように、社会的な見方・考え方を獲得する、社会的な見方・考え方を働かせて物事を考える、学びを自分のくらしにつなげるというような学びの過程をイメージした。これは、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する際に社会的な見方・考え方は獲得され、更に社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想することが社会的な見方・考え方を働かせる学習過程であると考えられる。そして、学習をふりかえる際に学びが自分のくらしにつながると考える。以上のことから教師の具体的な手立てを次のように考えた。

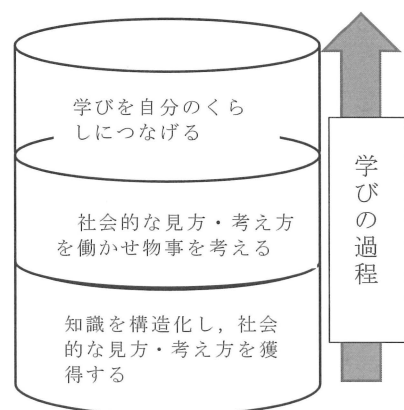


図1 学びの過程のイメージ

(1) 社会的な見方・考え方を獲得するための工夫

社会的事象に含まれる課題は、事象の背景や課題の本質を探求することで解決へ構想をたてることができる。これには課題を探求し解決へ向かって構想をたてる際に必要な社会的な見方や考え方が必要不可欠と考えた。そこで社会的な見方を獲得するために、学習場面において社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察できるように工夫する。さらに社会的な考え方を獲得するために、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想できるように工夫する。そのために比較・分類・統合したり、事象間の共通性や相違点を明確にしたり、因果関係など事象同士を関連づけたりして考える学習場面を大切にす。

また、獲得に効果的な発問の工夫とワークシートや思考ツールなどの活用によって、子どもの思考を「可視化」する。そうすることで、解決に向けての構想が他者と自分とは違う視点や方法があること、他者の存在が大切であることに気付くこともできる。それによって、子どもの中に他者の視点や方法を取り入れた社会的な見方・考え方が獲得されると考える。

(2) 社会的な見方・考え方を働かせるための工夫

答えのない課題のある未来社会を生きる子どもたちは、違う立場の考えを尊重し、解決へ構想する力が求められる。そのためには協働的で、建設的な話し合いの中で物事を選択・判断したりすることのよさを自覚するような経験を積み重ねる必要がある。そこで、単元の中で、自分の考えを吟味・再考したり、自分なりの見方・考え方を働かせて物事を選択・判断したりするような他者との学び合いの場を意図的に設定する。

例えば、時には吟味・再考した社会的な考え方を使った「賛成か反対か」「良いか悪いか」「どちらがより望ましいか」といった価値判断の話し合い場面も考えられる。

また、子どもの社会的な見方・考え方をくつがえすような資料、新しい情報や矛盾するような資料の提示をする。そうすることで、より課題の解決へ向かう構想に広がりや深まりができ、結果的に社会的な見方・考え方をより深められるようになると考える。

(3) 視点を明確にしたふりかえり

社会科で問題解決能力の育成を目指すとき、教材を通して学んだ学習内容、かつ活動を通して培った資質・能力を自分のくらしにつなげ、社会参画への関心や意欲を高めることが大切である。そこで、単元ごとや毎時間の振り返りの場において、視点を明確にしたふりかえりを行う。小学校では、一時間の学習の中でめあてに対して考えたこと、課題について選択・判断したこと、自分との関わりについて考えたことなど「思考・判断」に重点を置いて振り返る。また、ふりかえりを互いに共有する場を設ける。中学校では、子どもが自分の学びを振り返り、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連の考察、社会に見られる課題の把握、解決に向けた構想、解決策の有効性などを自分で理解することが大切である。社会的な見方・考え方を自己評価することで、問題解決能力の育成ができる则认为。そして、いずれの校種においても、単元の終末において、単元を貫く課題に対して振り返る場を設ける。このようなふりかえりを、どの単元でも大切にしながら、繰り返し行うことによって、社会的な見方・考え方が深めるとともに、学びを自分のくらしにつなげることができるようになると考える。

(文責 藤原 良平)